奇跡ではなく必然

中野　　毅
（NHKテキスト『趣味の園芸』元編集長）

A miracle? It was inevitable ...

NAKANO Takeshi

「とにかく、いつでもいいから、一度見に行ってごらん」
数多くの方々からこのように言われていた。

秋や冬でもいいのか、と聞いてみると、「うん、かまわない。花が咲いていても、いなくても、素晴らしいところだから」

このような声に後押しされて、NHKテキスト『趣味の園芸』で始まった連載が「夢の庭　恵泉蓼科ガーデンの四季」であった（2014年４月より。全６回）。

写真はガーデン長の小澤文子さんが、日々刻一刻と移り変わる姿を、慈しむような眼差しで収めて下さっていた。文も小澤さんによる非常に濃やかなもので、なにより大地に抗わず、自然に寄り添い、常に感謝の気持ちをこめながらガーデンとともに生きる姿には、いつも何かが込み上げてくるような思いがした。

恵泉蓼科ガーデンは、なぜこのように美しいのか。

それは、このガーデンが学生の教育の場、そして社会貢献の場として利用されていることと無関係ではないと思う。土に触れ、その香りを嗅ぐことにより、何かを感じ、考え、旅立っていった生徒たちがいる。そして、そのために30年ものあいだ、妥協することなく理想を求め続け、思いを繋ぎ、献身的にガーデンを守ってきた方々がいる。これらすべての思いが一つになって立ち現れているのが、恵泉蓼科ガーデンなのである。

だから、恵泉蓼科ガーデンの美しさは、必然なのだ。

時代がどのように移ろおうと、“神を畏れ、人を愛し、いのちを育む、そして

自然を慈しむ”という恵泉女学園の精神がある限り、このガーデンは受け継がれてゆくだろう。

そんなガーデンが日本にあることを、私たちは心からうれしく思う。

歓談のひととき２）

ガーデン案内

記念撮影 第１グループ